

自然観察NOW

No.14

野幌森林公園自然情報

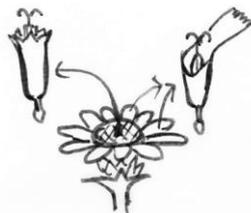
発行：2016年9月10日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

日ごと秋の深まり行くこの季節。花暦の最後を彩る花々、次世代に命を繋ぐ多彩な種子や秋を知らせる虫達を訪ねて、森歩きを楽しみましょう♪

この時期よく目に付く**菊の花**。キク科の花は小さい花が多数集まって一つの花を作っています。小さな花には2種類あります。

筒状花（とうじょうか）
花冠が筒状になっていて
先端がいくつか分かれる



舌状花（ぜつじょうか）
花冠の一方だけがのびそ
の先がいくつかに分かれる

タンポポやコウゾリナのように、舌状花だけが集まっているもの、アザミやヨモギ、ミミコウモリは筒状花だけが集まっているもの、アキノキリンソウ、オオアワダチソウのように両方の花をもっているものがあります。

野幌森林公園でこの時期よく観察できる、両方の花を持つキク科の花々です。

エゾノコンギク	ユウゼンギク	ネバリノギク
		
花びら（舌状花）20枚以下	花びら（舌状花）20枚以上	花びら（舌状花）50枚以上
茎や葉に剛毛があってザラザラしている	茎や葉に毛がなくツルツルしている	茎や葉、花の柄に触るとねばねばする
葉の基部は茎を抱かない	葉の基部は茎を半ば抱く	葉の基部は耳状に抱く
葉は幅のある楕円形でふちに荒いギザギザがある	葉は細い楕円形でふちはなめらか	葉は細い楕円形でふちはなめらか

北海道ボランティア・レンジャー協議会発行「自然観察ハンドブックⅡ」より

秋になるとみかける **あかとんぼ**

「アカトンボ」という名前のトンボはいなくて、「アカネ属」の仲間が赤くなります。アカネ属は日本では 21 種類、北海道では 18 種類が見つかっていて、代表的なものに、「アキアカネ」「ヒメリスアカネ」「マユタテアカネ」「ノシメトンボ」などがあります。

トンボには卵で越冬するもの、ヤゴ（幼虫）で越冬するもの、「オツネトンボ」のように成虫で越冬する 3 タイプがありますが、アキアカネは卵で越冬し、一年で一生涯を終えるサイクルで生息しています。

「アキアカネ」の一年

冬 卵で越冬、乾燥にも強く一時的に水が無くても大丈夫。

春 **4 月**頃、水の中で孵化。
ヤゴ（幼虫）は水中で約 3 ヶ月の間に何回もの脱皮をくりかえして成長。

夏 **7 月**頃、終齢幼虫は夜に水中から出て草などにつかまって羽化。
羽化したばかりのアキアカネはクリーム色で乾くと橙色にかわる。

8 月頃、水辺をはなれて標高の高い山に多くが移動。
（変温動物のトンボは気温の影響を強く受ける）

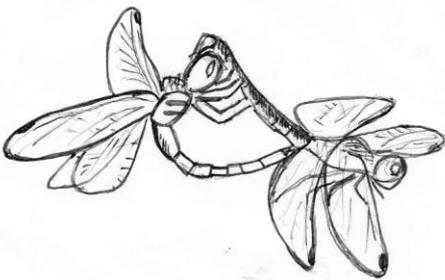
秋 **9 月**頃、高山で成熟したトンボは低地に降りる。

雄が腹の先の付属器で雌の頭をはさみ二匹ずつつながって飛行。

雌の腹の先が、雄の腹の付け根の副性器にくっついて交尾し、その後、二匹は連なったまま水田や沼などの水面上に飛び、雌の腹部先端で繰り返したたき、そのたびに数個の卵を産み落とす。

（参考文献「札幌のあかとんぼ」札幌市博物館活動センター）

文責：宮 津 京 子



10月の観察会

10月13日（木）：秋の森の匂いをかごう（10：00～14：30）

集合場所：開拓の村集合・解散

10月23日（日）：晩秋の森観察会志文別コース（10：00～14：30）

集合場所：自然ふれあい交流館集合・解散